

佐野市DX推進計画(案)概要

趣旨

少子高齢化や人口減少などの課題に対応するためには、行政や企業、あらゆる市民がデジタル技術を活用して、課題解決に取り組み、ライフスタイルやニーズに合った心豊かな暮らしの実現を目指すことが重要です。そこで、本市の自治体DXを推進し、市民の利便性向上や業務効率化を図り、更なる市民サービスの向上を目的として、「佐野市DX推進計画」を策定します。

位置付け

国や栃木県のデジタル化に関する指針や施策などを踏まえ、「第2次佐野市総合計画」等との整合を図り、本市のDXを積極的に推進するための個別計画として位置付けます。計画期間は令和8年度から令和11年度までの4年間です。

背景

国・県の動向

- ・国: 令和7年6月に閣議決定された「デジタル社会の実現に向けた重点計画」において、目指すべきデジタル社会のビジョンとして「デジタルの活用により、一人ひとりのニーズに合ったサービスを選ぶことができ、多様な幸せが実現できる社会 ～誰一人取り残さない、人に優しいデジタル化～」が改めて位置付けられました。
- ・県: 令和3年3月に「とちぎデジタル戦略」を策定、令和7年2月に「栃木県スマートシティ構想」を策定しました。

本市における現状と課題

- ・年ごとに「年少人口」と「生産年齢人口」が減少する一方で、「高齢人口」が維持・微減する見込みです。
- ・将来的に、安定した行政サービスを提供し、更に多様化する市民ニーズに対応するためには、業務やシステムの標準化やクラウド、AIなどのデジタル技術を活用し、市民サービスの向上と行政事務の効率化を両立させる必要があります。

基本方針

誰一人取り残さない、安全・安心で人に優しいデジタル化

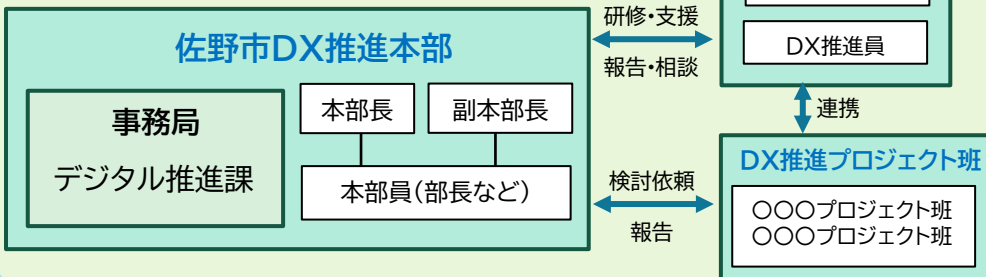
取組の三本柱

- ①市民の利便性向上に向けた取組
- ②行政の効果的・効率的な運営に向けた取組
- ③地域のデジタル社会実現に向けた取組

計画の推進

計画の推進体制

・佐野市DX推進本部の設置



計画の推進方法

・計画を進めていくにあたり、世界情勢、市場、技術、市民ニーズの急激な変化にアジャイル型アプローチで必要に応じて適宜見直しを図りながら、機動的かつ柔軟に取組を実施していきます。

※アジャイル: ビジネスやIT分野で、変化に素早く対応するための考え方や手法のこと。

基本方針を実現する取組と具体的事業

市民の利便性向上に向けた取組

1. 行政手続のデジタル完結の推進
2. マイナンバーカード利用の推進
3. キャッシュレス決済の推進（公金収納におけるeL-QRの活用）
4. スマート窓口の実現（フロントヤード改革）
5. 情報提供手段の充実

行政の効果的・効率的な運営に向けた取組

1. AI、RPAの活用
2. ドローンなどの活用
3. 自治体情報システムの標準化・共通化（ガバメントクラウド）
4. 内部事務デジタル化の推進
5. ペーパーレス化の推進
6. セキュリティ対策の徹底
7. デジタル人材の育成
8. データ利活用の推進（EBPMの推進）

地域のデジタル社会実現に向けた取組

1. 公衆無線LANの充実
2. 情報格差（デジタル・デバイド）対策
3. 新たな通信技術の活用
4. デジタル地域通貨の活用
5. 公共交通の助成制度デジタル化・高度化
6. デジタル教育の推進
7. 地理情報システム（GIS）の活用

